

## 会 議 録

会議の名称	平成26年度第2回清須市健康づくり推進協議会
開催日時	平成26年8月21日（木） 午後1時30分～午後3時45分
開催場所	清須市役所本庁舎 大会議室
議題	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. あいさつ</li> <li>2. 清須市の現状について</li> <li>3. 健康に関するアンケート調査結果について</li> <li>4. 「意見交換会（グループインタビュー）」結果について</li> <li>5. 課題整理・推進すべき方向性について</li> <li>6. その他</li> </ol>
会議資料	<p>会議次第</p> <p>資料1 清須市の現状</p> <p>資料2 健康に関するアンケート調査結果</p> <p>資料3 「意見交換会（グループインタビュー）」結果</p> <p>資料4 清須市保健事業について</p> <p style="margin-left: 20px;">4-1 母子保健事業（健康推進課）</p> <p style="margin-left: 20px;">4-2 成人保健・健康増進保健事業（健康推進課）</p> <p style="margin-left: 20px;">4-3 介護予防事業（高齢福祉課）</p> <p>&lt;参考資料&gt;</p> <p>健康に関するアンケート調査</p>
公開・非公開の別	公開
傍聴人の数	0人
出席委員	加藤委員、鬼頭委員、辻委員、小川委員、山内委員、後藤委員、近藤委員、関委員、伊藤委員、奥山委員、波多野委員、村上委員、川原崎委員、大池委員、鈴木委員（清須保健所）
欠席委員	0人
事務局	<p>濱島部長</p> <p>〔健康推進課〕 田中課長、森川主幹、佐古副主幹、寺社下副主幹、坂下主任主査</p> <p>〔高齢福祉課〕 古川副主幹</p> <p>〔その他〕（株）サーベイリサーチセンター（山村）</p>
会議の経過 《要旨》	<p>1. あいさつ</p> <p>濱島部長：本日はお忙しい中、協議会にご出席いただきありがとうございます。2回目となる本日の会議では、アンケート調査の集計結果、健康に関する統計資料、各種団体へのグループインタビューについてご報告させていただき、課題等についてご検討いただきたいと思います。</p> <p style="margin-left: 20px;">清須市の実態にあった計画にしていきたいと考えております。よろしくお願いたします。</p> <p>加藤会長：本日はお暑い中、お集まりいただきましてありがとうございます。健康の面か</p>

ら、より住みやすいまちづくりを考えていこうというのがこの会の趣旨でございます。忌憚のないご意見をお願いいたします。

## 2. 清須市の現状について（資料1）

事務局より、資料1から資料3まで一括説明。

加藤会長：まず、議題の2について、ご意見がありますか。

加藤会長：P13、清須市国民健康保険の受診状況をみると、5～9歳のあたりから「歯の支持組織疾患」が上位ですが、歯科では何かありますか。

鬼頭副会長：5～9歳の歯の健康も大事ですが、70歳以上の方の歯の健康も大事だと思います。高齢者になると、歯周病や喪失の方も多くなります。

鈴木委員：P3の死因別死亡率については、ベイズ推定値を使ったほうがよいのではないのでしょうか。

事務局：検討させていただきます。

鈴木委員：P8、9のがん検診については、重点的に取り組む課題を明確化し、今後の取り組みに生かしていくとよいと思います。

事務局：検診を受けて、発見されたがんとしては、大腸がん、乳がんが多くなっています。どのがんによる死亡が多いのかを把握して、今後の取組を検討していきたいと思えます。

加藤会長：女性よりも男性のほうが、がん検診の受診率が低いのは、何か要因があるのでしょうか。

事務局：女性がんの受診率が高いので、男性がんの早期発見が課題となっていました。男性は、職場では受けられていたのかもしれませんが、退職後の男性の検診の受診に課題があるのだと思います。また、死亡については、男性は、肺、胃、大腸がんが、女性は肺、大腸、すい臓がんが多くなっています。全体では、肺、大腸、胃がん、肝臓がんの死亡が多くなっています。

後藤委員：自殺者が多いことに驚きました。近くのマンションの飛び降りの話を耳にしますが、簡単に上れるようになってきているのかと疑問に感じます。今の若者は、簡単に「死ぬ」と言います。心の病気も増えているので、簡単に飛び降りることができるような環境は注意すべきです。

事務局：自殺の方法で圧倒的に多いのは縊死です。昔は、高齢女性の自殺が多かったのですが、最近では、働き盛りの男性等が多くなっています。

鈴木委員：最近のデータでは、30～40歳代が多くなっています。家族や地域が気付くことが大切だと思いますので、啓発して見守ることが必要だと思います。「お父さん、眠れていますか？」という娘から働き盛りの親への働きかけや、眠れているかチェックすることも大切です。

事務局：国の自殺対策の補助金があり、それを使って医師によるうつ相談、臨床心理士による心の相談などを案内しています。また、身近に声をかけていただけるゲートキーパーの育成も行っています。今回のデータでは自殺者が少し減少していますが、それが今後も続くかどうか危惧しているところです。

川原崎委員：P6の2-2特定保健指導利用率の推移をみると、利用率が高まってきていますが、その要因が何かわかりますか。また、利用率100%をめざしていく考えはありますか。

事務局：医療機関のご協力の下で、健診の結果を返却したその日に特定保健指導をしていただく取組をしているので、利用率が高まっています。行政としては、多くの方

に健診を受けていただくこと、ご自身で健康づくりをしてほしいことが願いとしてあります。また、保健指導は、保健師とのつながりが重要になるので、説明会等を通じて利用率の向上を図りたいと思います。

事務局：利用率が下がるとペナルティが発生する制度もあり、その結果、保険税が上がるということもあるので、その点も含めてPRしてきました。健診結果を健康づくりに活用することが大切だと思っています。

### 3. 健康に関するアンケート調査結果について（資料2）

加藤会長：では、「3」について、何かありますか。

大池委員：アンケートのねらいが計画の最終評価とありますが、このアンケート結果だけでは最終評価とはならないのではないのでしょうか。市として、こういうことを実施したから、こういう結果になった、今後はこうしていきたいという形で整理してほしいと思います。また、アンケート結果は、性別や年齢別などの分析も必要だと思います。

小川委員：私が前回の会議で指摘したことは修正していただいているのですが、健康日本 21 清須計画が知られていないことには驚きました。最終評価の結果が市の取り組みの結果であり、“偶然の結果”ではないことを示す必要があると思います。

事務局：健康日本 21 清須計画の認知度が低いことはショックでした。いろいろな取り組みが計画に基づいて実施している事業であることをPRできていないことが反省点です。本日の資料は単純集計のみですので、詳しい分析結果は今後まとめていきます。

大池委員：計画の名称は、「日本一長寿をめざそう！」というもののほうが覚えやすいと思います。インパクトのある名称にしないと、覚えていただけないのではないのでしょうか。

事務局：第2次計画については、インパクトがあり市民の皆様親しんでいただけるようなものにしていきます。私たちの発信力不足も反省していききたいと思います。

鈴木委員：計画の取組指針と目標指標をリンクさせると良いのではないのでしょうか。また、前回の計画は、目標が少ないので増やすことを検討されたらどうでしょうか。目標値は、アンケートからだけではなく、実績数値も用いていくと良いと思います。

### 4. 「意見交換会（グループインタビュー）」結果について（資料3）

加藤会長：では、「4」についていかがでしょうか。

事務局：「4」についてはご説明させていただきましたので、「5」についてご検討をお願いしたいと思います。

### 5. 課題整理・推進すべき方向性について

加藤会長：では、「5」について、いかがでしょうか。

大池委員：常に広報などでPRしていったほうがいいと思います。市の広報に、1つコーナーを設けて、毎月情報発信していったほうがいいのではないのでしょうか。

後藤委員：アンケート調査が20歳以上で実施されていますが、学校を通じて子どもたちにも実施できないのでしょうか。

大池委員：子どもが対象だと、教育委員会の管轄になるので難しいかもしれません。テーマを絞って聴くなどの工夫が必要かもしれません。

事務局：子どもに対するアンケート調査は、学校を通じて実施するしかありません。今回

の調査は、前回のアンケート調査との比較を前提として、同じ仕様で実施したものです。

加藤会長：食では、新しい給食センターもできましたが、伊藤委員いかがですか。

伊藤委員：地産地消のための料理教室をやっていますが、こうした機会をもっと増やせると良いと思います。

小川委員：確認ですが、第2次計画は、平成27年から平成35年ということですか。人口が減少し、高齢者が増え、子どもも減少していく中で、時間的な流れを踏まえて計画を検討していく必要があると思います。

川原崎委員：町内会がブロックに分かれているが、各ブロックの意識向上を図るための情報提供や提案をするような方法がないでしょうか。

伊藤委員：食生活改善推進員では、1時間半の講座を持って、ブロックからの依頼で2つの「地区サロン」で講座を実施しました。そういう機会をいただければ情報提供や啓発ができると思います。

事務局：この計画は、行政だけの取組ではできないので、ブロックの中で健康づくりの推進という考え方も持っております。また、職場の中での健康づくりやメディアを通じた情報もありますので、様々な形で推進していきたいと思います。

加藤会長：たばこのことについては、奥山委員、いかがでしょうか。

奥山委員：学校などで啓発しましたが、今は学校も忙しくて、子どもたちに関われる時間が作れないのが現状です。また、アンケートの中に「健康体操があると良い」という意見がありましたが、今、愛知県のほうで体操をつくるという話が動いております。年内に作って、いろいろな所でやっていくことになると思います。清須にも健康体操（きよす音頭）があるのに、知られていないのだなと思います。あるものはうまく使っていいただければよいと思います。

加藤会長：先ほどブロックという話が出ましたが、商工会で会員の健康管理に携わっている立場から、関委員、いかがですか。

関委員：商工会としましては、独自に健康診断を実施しています。有料で、希望者だけの実施なので、受けられる方はわずかです。市の健康診断を受けていただくように声をかけています。

関委員：肺がん検診についてお聞きしたいのですが、レントゲンの検査は受けていますが、痰の検査は痰が出にくいので、何か良い方法がないかと思います。

鬼頭副会長：アンケートの年代別回収率を知らせてほしいと思います。アンケートは、自分の健康を見つめるのに役立つと思うのでいいと思います。また前のアンケートと比較するということが大変重要なことだと思います。8020運動は80歳になっても20本以上の自分の歯を持つという運動で生涯、自分の歯で食べる楽しみを味わうことができることを願って推進しています。検診も、積み重ねだと思えます。歯科検診を毎年実施してきた企業では医療費の削減につながったという実例もあります。

奥山委員：血液のみで十数種類のがん検診ができるという話を聞きましたので、そうしたことも取り入れてもらえると検診に伴う痛み等の負担が少なく受診できると思います。

加藤会長：専門外ですが、遺伝子を解析することで検診できるという話を聞いています。可能になるのだろうとは思いますが、コストの問題もあるので、市の検診に取り入れられるかどうかはわかりません。

奥山委員：血液だけで検査できれば、受診する人が増えるのではないかと思います。たと

えば一部の負担で受診できるとありがたいと思います。

6. その他

事務局 : ありがとうございました。本日のご意見やご要望については、次回またご報告させていただきます。次回は、10月16日(木)、11月25日(火)で開催を予定しております。ご参加をお願いいたします。

会議の経過を記載して、その内容に相違ないことを証するためにここに署名します。

署名委員

小川 禎一 ⑩

波多野 眞澄 ⑩

会議の結果	会議の経過に示したとおり
問い合わせ先	健康福祉部 健康推進課 052-400-2911 内線4360